

建夫、小澤 毅. 無菌化米飯における容器内残存酸素濃度とボツリヌス A・B 型菌の増殖の関係について. 日本食品衛生学会、平成 18 年 10 月 26 日、27 日、名古屋.

- 6) 荒川英二、泉谷秀昌、森田昌知、T. Ramamurthy、渡辺 治雄 *Vibrio fluvialis* の *toxR* を標的とした検出法の検討 第 40 回腸炎ビブリオシンポジウム 11 月 東京
- 7) 木村晃一、原田勝一郎、上橋健三、岡田由美子、五十君静信. 市販のナチュラルチーズにおけるリステリア・モノサイトゲネスの挙動. 第 27 回日本食品微生物学会学術総会. 2006. 9. 大阪
- 8) 岡田由美子、石和玲子、高谷幸、山本茂貴、五十君静信. 未殺菌乳を原料とするチーズ製造工程における *Listeria monocytogenes* の消長. 日本細菌学会 2007. 3. 大阪
- 9) 高山幸大、荒木恵美子、藤井建夫、斉藤美佳子、松岡 英明: 魚肉ホモジネートからのヒスタミン生成菌の生菌分離条件の検討. 平成 18 年度日本防菌防黴学会大会、ICp-9、東京、2006 年 5 月.
- 10) 河西ちか子、新井達、斉藤美佳子、松岡英明、島北寛仁、田代義和、神田修平: 生乳中の微生物迅速検出法の開発. 平成 18 年度日本防菌防黴学会大会、ICp-8、東京、2006 年 5 月

平成 19 年度

- 1) 酒井史彦、居原秀、青山顕司、五十嵐英夫、柳平修一、浅尾努、小崎俊司、

ブドウ球菌エンテロトキシン H の ELISA 法の構築および食中毒由来株における H 型毒素の分布. 第 27 回日本食品微生物学会、平成 18 年 9 月、大阪

- 2) 青山顕司、酒井史彦、居原秀、五十嵐英夫、柳平修一、浅尾努、小崎俊司. ブドウ球菌エンテロトキシン H の産生条件に関する検討. 第 27 回日本食品微生物学会、平成 18 年 9 月、大阪
- 3) 木村竜介、木村凡、藤井建夫、宮沢純子、市岡法隆. 低温増殖性 *Clostridium botulinum* II 型菌 (B 型、E 型) の増殖抑制におよぼすチアミンラウリル硫酸塩の効果. 日本食品衛生学会、平成 19 年 5 月、東京.
- 4) 田中悠一郎、高橋肇、下井敦美、清水潮、木村凡. SSCP 法による魚類のフローラ解析. 日本水産学会、平成 19 年 9 月、北海道.
- 5) 宮聡子、齊藤知佳、高橋肇、木村凡、藤井建夫. 非加熱喫食水産食品における *L. monocytogenes* の分布に関する研究. 日本食品微生物学会. 平成 19 年 9 月、東京.
- 6) 宮聡子、須田貴之、石川達也、高橋肇、木村凡、藤井建夫. 水産食品から分離したリステリア菌の病原関連遺伝子の欠失とその病原性について. 日本食品微生物学会. 平成 19 年 9 月、東京.
- 7) 木村竜介、高倉知佳子、高橋肇、木村凡、宮沢純子、市岡法隆. *L. monocytogenes* の増殖抑制におよぼすチアミンラウリル硫酸塩の効果. 日本食品微生物学会. 平成 19 年 9 月、東京.

- 8) 五十嵐珠美, 高橋肇, 大内歩, 木村凡.
ネコカリシウイルスの固体表面上における生残性について. 日本食品衛生学会. 平成 19 年 10 月、静岡.
- 9) 石川達也, 滝沢是子, 宮聡子, 齊藤知佳, 高橋肇, 木村凡, 藤井建夫. 非加熱喫食水産食品における *L. monocytogenes* の挙動について. 平成 19 年 10 月、静岡.
- 10) 五十君静信. 微生物検査標準法を必要とする背景とその目指すもの. シンポジウム“食品衛生管理と微生物検査のあり方”日本食品微生物学会総会. 2007 年 9 月、東京
- 11) 五十君静信. 微生物検査の標準化・日本の現状と今後.「食の安全確保のためのシステムづくり～世界・日本・埼玉の現状」. 第 29 回日本食品微生物学会学術セミナー. 2007 年 12 月、さいたま
- 12) 山田洋平, 山口直俊, 篠崎行啓, 齊藤美佳子, 松岡英明, “細胞迅速呼び出し機能を利用した高効率単一細胞実験”, 日本化学会第 87 春季年会, 大阪, 2007 年 3
- 13) 松岡英明, 高山幸大, 小泉貴寛, 荒木恵美子, 齊藤美佳子, “食品中の生菌の迅速分画計数システムの開発”, 日本化学会第 87 春季年会, 大阪, 2007 年 3 月
- 14) 荒木恵美子, 高山幸大, 宇田川藤江, 田中寛行, 齊藤美佳子, 松岡英明, “水産食品からの食品マトリクスの物理化学的性質による分離条件の検討”, 日本防菌防黴学会第 34 回年次大会, 大阪, 2007 年 8 月
- 15) 高山幸大, 荒木恵美子, 宇田川藤江, 田中寛行, 齊藤美佳子, 松岡英明, “水産食品からの微生物の物理的性質による分離条件の検討”, 日本防菌防黴学会第 34 回年次大会, 大阪, 2007 年 8 月
- 16) 畑 圭輔, 齊藤美佳子, 松岡英明, “生菌検出試薬としての 2-NBDG の特性解析”, 日本防菌防黴学会第 34 回年次大会, 大阪, 2007 年 8 月
- 17) 瀬口裕介, 小泉貴寛, 齊藤美佳子, 松岡英明, “密度勾配遠心分離後の生菌画分回収システムの開発”, 日本防菌防黴学会第 34 回年次大会, 大阪, 2007 年 8 月
- 18) 澤山成行, 坪井成緒, 津村和伸, 島北寛仁, 齊藤美佳子, 松岡英明, “非培養法による豆乳中の細菌計数法の検討”, 日本防菌防黴学会第 34 回年次大会, 大阪, 2007 年 8 月
- 19) 澤山成行, 松嶋寛招, 山口典生, 島北寛仁, 齊藤美佳子, 松岡英明, “CMP スラリー中の微生物動向とその計数法の検討”, 日本防菌防黴学会第 34 回年次大会, 大阪, 2007 年 8 月
- 20) 澤山成行, 島北寛仁, 永幡 肇, 齊藤美佳子, 松岡英明, “蛍光染色法による生乳中の細菌数と体細胞検出法の検討”, 第 144 回日本獣医学会学術集会, 北海道, 2007 年 9 月
- 21) 山崎 貢, 岩出義人, 松本昌門, 荒川英二, 皆川洋子: LAMP 法による増殖性を有する耐熱性溶血毒 (TDH) 産生性腸炎ビブリオの海産魚介類からの検出法 (第 41 回腸炎ビブリオシンポジウム).

- 神戸. 2007 年 11 月
- 22) 宮原美知子、荒川英二：腸炎ビブリオの食品からの迅速検出法の検討。第 41 回腸炎ビブリオシンポジウム、2007 年 11 月
 - 23) M. Miyahara, M. Miyahara, E. Arakawa: Detection of *Vibrio parahaemolyticus* by PCR in food and effect of electron-beam irradiation on the detection of *Vibrio parahaemolyticus*. *Vibrio* 2007, 2007 年 11 月
 - 24) G. Chowdhury, E. Arakawa, M. Morita, H. Izumiya, G. P. Pazhani, M. K. Bhattacharya, P. Dutta, G. B. Nair, K. Okamoto, S. Shinoda, A. K. Mukhopadhyay, S. Yamasaki, H. Watanabe, R. K. Nandy, Y. Takeda, S. K. Bhattacharya, T. Ramamurthy: *Vibrio fluvialis*: An emerging pathogen in causing acute diarrhea in Kolkata, India *Vibrio* 2007, 2007 年 11 月
 - 25) Seto Y, Iritani N, Seto T, Hattori H, Natori K, Takeda N, Kubo H, Yamano T, Ayata M, Ogura H, Humoral immune responses against Norovirus infection of infant. 3rd International Calicivirus Conference. November, 2007. Mexico.
 - 26) Iritani N, Vennema H, Siebenga J, Siezen R, Renckens B, Seto Y, Kaida A, Koopmans M. Genetic analysis of the capsid gene of genotype GGII2 Noroviruses. 3rd International Calicivirus Conference. November, 2007. Mexico.
 - 27) 林 志直、森 功次、野口やよい、秋場哲哉、貞升健志、新開敏行、長島真美、長谷川道弥、田部井由紀子、吉田靖子、矢野一好：社会福祉施設の調理従事者からのノロウイルス検索、第 55 回日本ウイルス学会学術集会、札幌市、2007 年 10 月
- 平成 20 年度
- 1) Umeda, K., T. Kohda, Y. Seto, M. Mukamoto and S. Kozaki. A new BoNT/B subtype detected from infant botulism in Japan. The 6th International Conference on Basic and Therapeutic Aspects of Botulinum and Tetanus Toxins, イタリア ビエモンテ州 (2008.6.12-14)
 - 2) 梅田 薫、小笠原 準、幸田知子、勢戸祥介、向本雅郁、小崎俊司. わが国で発生した A 型ボツリヌス症分離株の分子疫学的解析. 第 61 回日本細菌学会関西支部総会、京都市 (2008.11.8)
 - 3) 梅田 薫、小笠原 準、幸田知子、勢戸祥介、向本雅郁、小崎俊司. わが国で発生した A 型乳児ボツリヌス症分離株の分子疫学的解析. 第 29 回日本食品微生物学会学術総会、広島市 (2008.11.12-13)
 - 4) 倉本晋太郎、高橋肇、須田貴之、木村凡. ステンレス上で乾燥させた *Listeria monocytogenes* の生残性についての研究. 第 95 回日本食品衛生学会学術講演会、銀座プロッサム

- (2008. 5/15~16)
- 5) 高倉知佳子, 高橋肇, 木村凡. Real-time PCR 法を用いた米飯サンプル中の *C. botulinum* のモニタリング法. 第 96 回日本食品衛生学会学術講演会, 神戸学院大学 (2008. 9/18~19)
 - 6) 大内歩, 高橋肇, 木村凡. ネズミノロウィルスのステンレス表面上における生存性. 第 29 回日本食品微生物学会学術総会, 広島国際会議場 (2008. 11/12~13)
 - 7) 上村周子, 高橋肇, 山本純子, 中筋愛, 橋爪克仁, 木村凡. Cycleave PCR を用いた *Listeria monocytogenes* の定量法および検出法の開発. 第 29 回日本食品微生物学会学術総会, 広島国際会議場, (2008. 11/12~13)
 - 8) 北澤奈緒, 田中悠一郎, 高橋肇, 木村凡. 16SrDNA T-RFLP 法による鮮魚の菌叢解析法の検討. 平成 21 年度日本水産学会春季大会, 東京海洋大学, (2008. 3・27~30)
 - 9) 犬塚嶺, 倉本晋太郎, 真船碧, 高橋肇, 木村凡. 非加熱喫食水産食品における *Listeria monocytogenes* の増殖挙動とその制御法についての予備検討. 平成 21 年度日本水産学会春季大会, 東京海洋大学, (2008. 3・27~30)
 - 10) R. Li, T. Harada, K. Honjoh, T. Miyamoto. Genotyping of Enterohemorrhagic Escherichia Coli Strains Isolated from Human Patients in Japan, ASM 2008 Melbourne/Annual Scientific Meeting Exhibition, 2008. 07. 09.
 - 11) L. Pei, K. Fujihara, H. Mizue, K. Honjoh and T. Miyamoto. Studies on subtyping and pathogenicity of *Listeria monocytogenes*. 14th World Congress of Food Science & Technology, 2008. 10.
 - 12) 飯塚節子, 岡 智一郎, 片山和彦, 武田直和, 野田 衛: サボウイルスとノロウイルスが検出された食中毒事例, 第 56 回日本ウイルス学会学術総会, 岡山市, 10/28 (2008)
 - 13) 植木 洋, 庄司美加, 山本美和子, 阿部勝彦, 伊藤文明, 池田義文, 西尾 治, 岡 智一郎, 片山和彦, 武田直和, 野田 衛: カキを用いたサボウイルスの環境調査, 第 56 回日本ウイルス学会学術総会, 岡山市, 10/28 (2008)
 - 14) 田村 務, 西川 眞, 野田 衛, 武田直和, 田中智之, 鈴木 宏: 急性胃腸炎患者から嘔吐後に採取された口腔うがい液中のノロウイルスの定量, 第 56 回日本ウイルス学会学術総会, 岡山市, 10/28 (2008)
 - 15) 野田 衛, 阿部勝彦, 伊藤文明, 武田直和: 表面汚染が推定される食品からのノロウイルス検出法に関する検討, 第 29 回日本食品微生物学会学術総会, 広島市, 11/12 (2008)
 - 16) 重富知也, 斉藤美佳子, 松岡英明, “生乳中微生物の非培養・培養トレーサブル検出”, 日本化学会第 89 春季年会, 船橋 (2009 年 3 月 29 日)
 - 17) H. Matsuoka, T. Matsuzaki, T. Shimakita, M. Saito, Automatic

- system for the non-destructive separation of microbial cells from food samples and its applicability to nonculture-to-culture seamless method. 122nd AOAC International Annual Meeting and Exposition, Dallas (September 21-24, 2008).
- 18) 末崎拓広, 島北寛仁, 斉藤美佳子, 松岡英明. 密度勾配遠心分離法に基づく食品中微生物のバイアブルセパレーション. 日本防菌防黴学会第35回年次大会, 浜松 (2008年9月12日)
- 19) 島北寛仁, 高山幸大, 末崎拓広, 水野靖紀, 斉藤美佳子, 松岡英明. CFDA 法対応型蛍光顕微計数装置の開発. (同上)
- 20) 尾畑浩魅, 下島優香子, 小西典子, 上原さとみ, 門間千枝, 仲真晶子, 甲斐明美, 矢野一好: 「いかの塩辛」を原因とした腸炎ビブリオ食中毒事例. 第29回日本食品微生物学会学術総会, 2008年, 広島
- 21) 下島優香子, 尾畑浩魅, 小西典子, 上原さとみ, 門間千枝, 甲斐明美, 矢野一好: Ethidium Monoazide を用いた腸炎ビブリオ生菌と死菌の鑑別法の検討, 第42回腸炎ビブリオシンポジウム, 2008年, 富山
- 22) Shimojima Y., H. Obata, N. Konishi, C. Monma, S. Uehara, A. Nakama, A. Kai, and K. Yano : A rapid method for estimating viable *Vibrio parahaemolyticus* cell counts using real-time PCR, 29th World Veterinary Congress, 2008, Vancouver, Canada

3. 著書・総説等

平成19年度

- 1) 松岡英明: 微生物検査法のバリデーションの概略 “食品分析法の妥当性確認ハンドブック” (永田忠博, 後藤哲久, 丹野憲二, 安井明美, 湯川剛一郎, 編) 第4章1節, サイエンスフォーラム (2007) pp189-198.
- 2) 松岡英明: 技能試験の必要性と標準化の動向. *NISSUI TECHNOMEDIA* 7, 2-7 (2007).
- 3) 斉藤美佳子, 松岡英明: 微生物の迅速検出法. 日本防菌防黴学会誌 36, 99-105 (2008).

Ⅱ．研究成果の刊行に関する一覧表

II. 研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

平成 18 年度

- 1) B. Kimura: Recent advances in the study of the genotypic diversity and ecology of *Listeria monocytogenes*. Microbe. Environ., 21, 69-77 (2006)
- 2) 丸山弓美, 木村 凡, 藤井建夫, 徳永宜則, 松林 潤, 相川保史: 食卓用ドライアイス装置内の魚介類における腸炎ビブリオの増殖抑制, 食品衛生学雑誌, 46, 213-217 (2006)
- 3) 藤川 浩・矢野一好・諸角 聖・木村凡・藤井建夫: 各種温度条件下における微生物増殖予測プログラムの開発, 食品衛生学雑誌, 47, 288-292 (2006)
- 4) 尾畑浩魅, 下島優香子, 小西典子, 門間千枝, 矢野一好, 甲斐明美, 諸角聖, 福山正文: 腸炎ビブリオ食中毒事例における PCR 法を用いた食品からの耐熱性溶血毒 (TDH) 産生菌の分離, 感染症学雑誌, 80, 383-390 (2006)
- 5) T. Shimakita, Y. Tashiro, A. Katsuya, M. Saito, H. Matsuoka: Rapid Separation and Count of Viable Microbial Cells in Foods by Non-culture Method with a Bioplorer, a Focusing-free Microscopic Apparatus with a Novel Cell Separation Unit. J. Food Protection, 69, 145-151 (2006).
- 6) K. Fujioka, I. Kozono, M. Saito, H. Matsuoka: Rapid Evaluation of the Efficacy of Microbial Cell Removal from Fabrics. J. Ind. Microbiol. Biotechnol., 33, 995-1002 (2006).

平成 19 年度

- 1) K Seto, M Taguchi, K Kobayashi, S Kozaki. Biochemical and molecular characterization of minor serogroup of Shiga toxin-producing *Escherichia coli* isolated from humans in Osaka prefecture. J. Vet. Med Sci., 69(12): 1215-1222, 2007
- 2) 浅尾 努 (2007) 食品の微生物検査法と食中毒発生時の疫学調査法 (2) 大腸菌群、糞便系大腸菌群、大腸菌、日本防菌防黴学会誌、35 : 401-410.
- 3) 浅尾 努、河合高生、久米田裕子、寺本忠司、石黒 厚、梅迫誠一、小笠原 準、高須一重、美野朋隆、日野亮一、齋藤利江、小崎俊司、山本茂貴 (2007) 食品の細菌学的試験法の現状と問題点 (日本食品微生物学会 食品の細菌検査法問題検討委員会報告) 日本食品微生物学雑誌、24 : 134-143.
- 4) Y. Kasai, B. Kimura, Y. Tajima, and T. Fujii, Quantitative duplex PCR of *Clostridium botulinum* types A and B neurotoxin genes. J. Food Hyg. Soc. Jpn. 48 (2007) 19-26.
- 5) S. Handa-Miya, B. Kimura, H. Takahashi, M. Sato, T. Ishikawa, K. Igarashi, T. Fujii.: Nonsense-mutated *inlA* and *prfA* not widely distributed in *Listeria monocytogenes* isolates from

ready-to-eat seafood products in Japan, *Int. J. Food Microbiol.* 117 (2007) 312–318.

- 6) H. Takahashi, S. Handa, B. Kimura, M. Sato, A. Yokoi, S. Goto, I. Watanabe, T. Koda, K. Hisa, and T. Fujii: Development of Multilocus Single Strand Conformational Polymorphism (MLSSCP) Analysis of Virulence Genes of *Listeria monocytogenes* and Comparison with Whole Genome DNA Typing *Int. J. Food Microbiol.* 118 (2007) 274–284
- 7) Y. Tanaka, B. Kimura, H. Takahashi, T. Watanabe, A. Kai, S. Morozumi, and T. Fujii: Lysine decarboxylase of *Vibrio parahaemolyticus*: kinetics of transcription and role in acid resistance. *J. Appl. Microbiol.* in press (2007, doi: 10.1111/j.1365-2672.2007.03652.x)
- 8) B. Kimura, R. Kimura, T. Fukaya, K. Sakuma, S. Miya, and T. Fujii: Growth and toxin production of proteolytic *Clostridium botulinum* in aseptic steamed rice products at pH 4.6 – 6.8 packed under modified atmosphere using a deoxidant pack. *J. Food Prot.* 71, (2008), 468–472.
- 9) H. Takahashi, B. Kimura, Y. Tanaka, M. Mori, A. Yokoi, and T. Fujii: Use of single-strand conformation polymorphism of amplified 16S rDNA for grouping of bacteria isolated from foods. *J. Food Prot.* 71 (2008) 839–844.
- 10) B. Kimura, Y. Sekine, H. Takahashi, Y. Tanaka, H. Obata, A. Kai, S. Morozumi, and T. Fujii: Multiple-locus variable-number of tandem-repeats analysis distinguishes *Vibrio parahaemolyticus* pandemic O3:K6 strains. *J. Microbiol. Meth.* 72 (2008) 313–320.
- 11) K. Fujioka, P. Geis, M. Saito, H. Matsuoka: Visualization of Yeast Single-cells on Fabric Surface with a Fluorescent Glucose and Their Isolation for Culture. *J. Ind. Microbiol. Biotechnol.* 34, 685–688 (2007).
- 12) K. Fujioka, I. Kozono, M. Saito, H. Matsuoka: Automatic mapping of viable microbial cells distributed in the surface layer of cotton fabrics. *Biocontrol Science*, 12, 31–34 (2007)
- 13) K. Yamada, M. Saito, H. Matsuoka, N. Inagaki: A Real-time Method of Imaging Glucose Uptake in Single, Living Mammalian Cells. *Nat. Prot.* 2, 753–762 (2007)
- 14) H. Kodaka, S. Mizuochi, M. Saito, H. Matsuoka: Evaluation of a new medium for the enumeration of total coliforms and *Escherichia coli* in Japanese surface waters. *J. Appl. Microbiol.* 104, 1112–1118(2007).
- 15) Y. Yamada, N. Yamaguchi, M. Ozaki, Y. Shinozaki, M. Saito, H. Matsuoka: An instant Cell Recognition System Using Microfabricated Coordinate Standard Chip Useful for Combinable Cell Observation with Multiple Microscopic Apparatus. *Microsc. Microanal.* 14, 1–7 (2008)
- 16) N. Iritani, T. Seto, H. Hattori, K. Natori, N. Takeda, H. Kubo, T. Yamano, M. Ayata, H. Ogura, Y. Seto.: Humoral immune responses against Norovirus infection of children. *J. Med. Virol.* 79:1187–1193.(2007)
- 17) 松岡英明：微生物検査法のバリデーションの概略 “食品分析法の妥当性確認ハンドブック” (永田忠博、後藤哲久、丹野憲二、安井明美、湯川剛一郎、編) 第4章1節、サイエンスフォーラム (2007) pp189–198.

- 18) 松岡英明：技能試験の必要性和標準化の動向。 *NISSUI TECHNOMEDIA* 7, 2-7 (2007).
・ 齊藤美佳子、松岡英明：微生物の迅速検出法。 *日本防菌防黴学会誌* 36, 99-105 (2008).

平成 20 年度

- 1) 浅尾 努、河合高生 (2008) 特集 微生物検査の国際規格への対応 食品の衛生指標菌試験法の現状と今後、食品と開発、43 : 7-10.
- 2) 浅尾 努 (2008) 特集 検査態勢の無駄を見直す ～微生物検査とアレルギー管理～ 衛生指標菌と規格基準の現状と今後—国際動向を踏まえて～このままで良いのか、日本の食品細菌試験法～、月刊 HACCP、14 : 20-30
- 3) Y. Tanaka, B. Kimura, H. Takahashi, T. Watanabe, A. Kai, S. Morozumi, and T. Fujii. Lysine decarboxylase of *Vibrio parahaemolyticus*: kinetics of transcription and role in acid resistance. *J. Appl. Microbiol.* 104 (2008) 1283-1293.
- 4) B. Kimura, R. Kimura, T. Fukaya, K. Sakuma, S. Miya, and T. Fujii. Growth and toxin production of proteolytic *Clostridium botulinum* in aseptic steamed rice products at pH 4.6 - 6.8 packed under modified atmosphere using a deoxidant pack. *J. Food Prot.* 71 (2008) 468-72.
- 5) H. Takahashi, B. Kimura, Y. Tanaka, M. Mori, A. Yokoi, and T. Fujii. Use of single-strand conformation polymorphism of amplified 16S rDNA for grouping of bacteria isolated from foods. *J. Food Prot.* 71 (2008) 839-842.
- 6) B. Kimura, Y. Sekine, H. Takahashi, Y. Tanaka, H. Obata, A. Kai, S. Morozumi, and T. Fujii: Multiple-locus variable-number of tandem-repeats analysis distinguishes *Vibrio parahaemolyticus* pandemic O3:K6 strains. *J. Microbiol. Meth.* 72 (2008) 313-320
- 7) B. Kimura, H. Takahashi, S. Hokimoto, Y. Tanaka, and T. Fujii. Induction of the histidine decarboxylase genes of *Photobacterium damsela* subsp. *damsela* (formally *P. histaminum*) at low pH. *J. Appl. Microbiol.* In press (2009).
- 8) H. Takahashi, S. Miya, B. Kimura, K. Yamane, Y. Arakawa, and T. Fujii. Difference of Genotypic and Phenotypic Characteristics and Pathogenicity Potential of *Photobacterium damsela* subsp. *damsela* between Clinical and Environmental Isolates from Japan. *Microbial Pathogenesis*, 45 (2008) 150-158.
- 9) S. Miya, B. Kimura, M. Sato, H. Takahashi, T. Ishikawa, T. Suda, C. Takakura, T. Fujii and M. Wiedmann. Development of a multilocus variable-number of tandem repeat typing method for *Listeria monocytogenes* serotype 4b strains. *International Journal of Food Microbiology*, 124 (2008) 239-249.
- 10) K. Honjoh, K. Fujihara, T. Haraguchi, Y. Ono, H. Kobayashi, H. Hiwaki, H. Kamikado, S. S. Jang, S. Ryu, and T. Miyamoto, (2008) Subtyping of *Listeria monocytogenes*

- based on nucleotide polymorphism in the *clpC*, *inlA*, *hlyA*, and *plcA* genes and rapid identification of *L. monocytogenes* genetically similar to clinical isolates. Food Science and Technology Research, 14(6): 557-564
- 11) Hansman GS, Oka T, Li TC, Nishio O, Noda M, Takeda N: Detection of Human Enteric Viruses in Japanese Clams, J Food Protect, 71, 1689-1695 (2008)
 - 12) 有田知子、木村博一、野田 衛、西尾 治: パンに含まれるノロウイルスの回収法の検討, 感染症学雑誌, 82, 473-475 (2008)
 - 13) 野田 衛: ウイルス性食中毒の検査, 臨床と微生物, 585-591 (2008)
 - 14) 五十君静信: 微生物試験法の国際規格にどう対応していくか, 食品と開発, 43, 4-6 (2008)
 - 15) 五十君静信: 食品からの微生物検査標準法の検討～これまでの経緯とこれからの展望～, 月刊フードケミカル, 24, 51-54 (2008)
 - 16) 五十君静信: 食品の微生物試験法を国際規格にどの様に対応していくか, 月刊 HACCP, 14, 20-29 (2008)
 - 17) E. Araki, K. Takayama, M. Saito, H. Matsuoka, "Separation of Viable Histamine-Producing Bacteria from Yellowtail Meat Components by Density Gradient Centrifugation." *Biocontrol Sci.* 14, 31-34 (2009)
 - 18) 斉藤美佳子、松岡英明 “微生物の迅速検出法” 日本防菌防黴学会誌 36, 99-105 (2008)
 - 19) 斉藤美佳子、松岡英明 “微生物の迅速検出法” クリーンテクノロジー 18 (11), 1-5 (2008)
 - 20) 島北寛仁、斉藤美佳子、松岡英明 “微生物迅速検査装置「バイオブローラ」” 食品工業 51(16), 34-42 (2008)
 - 21) 荒川英二、甲斐明美: 腸炎ビブリオの標準試験法作成へ向けての検討、月刊フードケミカル, 2008-7, 2008.
 - 22) Iritani N, Kaida A, Kubo H, Abe N, Murakami T, Vennema H, Koopmans M, Takeda N, Ogura H, Seto Y. Genetic analysis of the capsid gene of genotype GII.2 noroviruses. J Virol. 82(15):7336-7345 (2008)
 - 23) Iritani N, Kaida A, Kubo H, Abe N, Murakami T, Vennema H, Koopmans M, Takeda N, Ogura H, Seto Y. Genetic analysis of the capsid gene of genotype GII.2 noroviruses. J Clin Microbiol. 46:2406-2409 (2008)
 - 24) 秋場哲哉、田中達也、新井輝義、林志直、森功次、野口やよい、永野美由紀、吉田靖子、矢野一好: 細菌添加培養処理によるカキ等からのノロウイルス検出率の向上. 食品衛生学雑誌. 2008, 49, 6, 407-410.
 - 25) 秋場哲哉、尾畑浩魅、林志直、森功次、野口やよい、永野美由紀、仲真晶子、甲斐明美、矢野一好: 細菌の生物活性を利用したカキからのノロウイルス検査法の改良. 東京都健康安全研究センター年報. 2008, 59, 57-61.

Ⅲ. 研究成果の刊行物・別刷

Minireview

Recent Advances in the Study of the Genotypic Diversity and Ecology of *Listeria monocytogenes*

BON KIMURA¹*

¹ Department of Food Science and Technology, Faculty of Marine Science, Tokyo University of Marine Science and Technology, 4–5–7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108–8477, Japan

(Received February 27, 2006—Accepted April 18, 2006)

Listeria monocytogenes, an intracellular pathogen, is the causative agent of listeriosis, a serious epidemic and sporadic food-borne disease. The clinical manifestations of listeriosis include meningitis, meningoencephalitis, septicemia, spontaneous abortion, perinatal infections, and gastroenteritis. Although rare in comparison to other food-borne diseases, listeriosis has a high rate of lethality (about 30%), making *L. monocytogenes* an important pathogen. *L. monocytogenes* can survive in a broad range of ecological niches, including farm environments and food-processing plants and in a wide range of hosts, including humans and many species of mammals. Furthermore, the capacity to adapt and survive under extreme conditions allows this bacterium to exist ubiquitously in the environment and to survive and proliferate under conditions within the food supply. Although the study of *L. monocytogenes* has already been extensively reviewed, knowledge about this pathogen has been expanding rapidly. Against the background of the growing body of information on this bacterium, the present review mostly discusses advances made in the study of this pathogen over the last 5 years.

Key words: *Listeria monocytogenes*, food pathogens

Introduction

Listeria monocytogenes, a Gram-positive foodborne pathogen, is responsible for listeriosis, which has an overall mortality rate in humans of 30%, manifesting as clinically asymptomatic fecal carriage, febrile gastroenteritis, severe mother-to-child infections, and central nervous system infections⁽⁹⁾. Although the incidence of listeriosis is low⁽³⁾, *Listeria monocytogenes* is second only to *Salmonella* spp. in the estimated number of food-related deaths it causes in the United States⁽⁸⁾, and food-borne transmission is the main route of listeriosis infection⁽³⁾.

Six species of the genus *Listeria* are currently recognized: *Listeria monocytogenes*, *Listeria innocua*, *Listeria*

ivanovii, *Listeria seeligeri*, *Listeria welshimeri* and *Listeria grayi*. Of these, only two species are considered to be pathogenic, *L. monocytogenes* in humans and *L. ivanovii* in other mammals. Most human infections by *L. monocytogenes* are attributed to the consumption of contaminated food. This pathogen usually affects susceptible individuals such as the elderly, pregnant women, newborn babies or fetuses. Symptoms are flu-like for healthy persons, but severe complications, such as meningitis, septicemia, spontaneous abortion or listeriosis of the newborn⁽⁴⁾, may occur. Pregnant women are most susceptible to this pathogen, accounting for approximately 35% of all cases worldwide⁽⁶⁾. Active surveillance in the United States showed that *L. monocytogenes* is the second leading cause of bacterial meningitis in patients younger than 1 month or older than 60 years⁽⁵⁾. The number of cases of listeriosis averaged 100 per year from 1993 to 1997 in the USA⁽¹⁾. A recent study in Japan^(2,4)

* Corresponding author; E-mail: kimubo@s.kaiyodai.ac.jp; Tel: +81-3-5463-0603; FAX: +81-3-5463-0603

—28—

bridization. Based on obvious patterns of gene presence or absence among *L. monocytogenes* serovars and *Listeria* spp., it is suggested that early divergence of the ancestral *L. monocytogenes* serovar 1/2c strains from the serovar 1/2b strains led to the establishment of two major phylogenetic lineages. It is also suggested that one group comprising the serogroup 4 strains branched off the serovar 1/2b ancestral lineage, producing (mostly by gene loss) the species *L. innocua*. This is of particular importance since strains of serovar 4b mainly represent epidemic *L. monocytogenes* strains and are isolated from severe invasive human cases more frequently than are strains of other serovars, such as serovar 1/2a. Another recent study¹¹ using DNA microarrays with 20 strains of *L. monocytogenes* representing six serovars revealed that a majority of epidemic strains of Lineage I grouped together, forming a cluster clearly distinct from the two other Lineage I clusters, which included primarily sporadic and environmental strains. The precise characterization of *L. monocytogenes* is essential for epidemic study of this species. Thus, selective markers for different subpopulations are an essential for the construction of rapid, accurate identification and subtyping methods, which should be powerful tools in public health and food industry investigations.

L. monocytogenes in hosts

All pathogenic bacteria must take on and overcome host defense systems and must circumvent many different stresses in order to arrive at the site of infection. *L. monocytogenes* is no exception. These mechanisms include compromising the acid barrier of the stomach, the physical barrier of the epithelial cells lining the gastrointestinal tract, and various immune defenses including the initial onslaught of macrophages. Survival in the presence of bile salt and acidic pH, along with the adhesion of protein and virulence factors required for colonization are important aspects of virulence and have been reviewed elsewhere^{11,19,47}.

The mechanisms by which *L. monocytogenes* invades mammalian cells have been elucidated by a series of detailed and intricate experiments. *L. monocytogenes* has the amazing ability to cross three significant barriers in humans, namely the intestinal barrier, the blood-brain barrier and the fetoplacental barrier (Fig. 2). Several steps involving a number of specialized molecules have been identified in the infection cells by this pathogen¹⁰: (1) internalin (also called InlA) and InlB (another member of the internalin multigene family, characterized by the presence of leucine-rich repeats), which are responsible for the internalization of *L.*

monocytogenes in cultured non-phagocytic cells; (2) listeriolysin, which acts in concert with two phospholipases (PlcA and PlcB) to allow escape from the phagocytic vacuole; and (3) ActA, which mediates actin-based intracytoplasmic movement and cell-cell spreading. Firstly, live bacteria delay phagosomal maturation and targeting by the degradative pathway through rapid lysis of the membrane of the acidified phagosome by listeriolysin O (LLO) acting in concert with the phospholipases PlcA and PlcB³⁶. Then, the bacteria reside freely in the cytoplasm, where they replicate and acquire F-actin-based intracellular motility based on expression of the ActA protein³⁰. Subsequently, they invade adjacent cells by cell-to-cell spread⁴¹.

The entry of *L. monocytogenes* into cultured human epithelial cells is mediated by the interaction of an *L. monocytogenes* surface protein, internalin and its human receptor, E-cadherin⁵². In a transgenic mouse model that expresses human E-cadherin in enterocytes, it was demonstrated that *L. monocytogenes* could cross the intestinal barrier assisted by internalin. Epidemiological evidence also suggests that internalin allows this pathogen not only to cross the intestinal barrier, but also to cross the placental and blood-brain barriers.

Particularly important among recent findings is the observation that some *L. monocytogenes* isolates express a truncated nonfunctional form of internalin⁵³. *L. monocytogenes* strains carrying a truncated *inlA* also were significantly less capable of invading Caco-2 cells than isolates with homologous 3' *inlA* sequences without a truncation⁵³. A recent study used an immunoblot assay to investigate the expression of internalin in 300 clinical strains obtained in France in a single year and a representative set of 150 strains obtained from food products during the same period²⁹. This study demonstrates the critical role of internalin in the pathogenesis of human listeriosis. In another recent study, the truncation of this gene in a number of food and environmental isolates was confirmed with *L. monocytogenes* isolated from the U.S.A.⁴². Truncations were also found in *prfA*⁵², which regulates the expression of a set of virulence factors, including listeriolysin O (LLO), actin polymerization protein ActA, phospholipases (PlcA and PlcB), and internalins. These recent findings support the usefulness of studying the expression of internalin and other virulence genes as markers of virulence in humans. Although the present prevalent opinion is that all strains of *L. monocytogenes* should be considered to be pathogenic³⁷, it now seems extremely important to determine whether assessment of the truncation of internalin or other virulence or virulence-associated genes provides a new tool for assessing

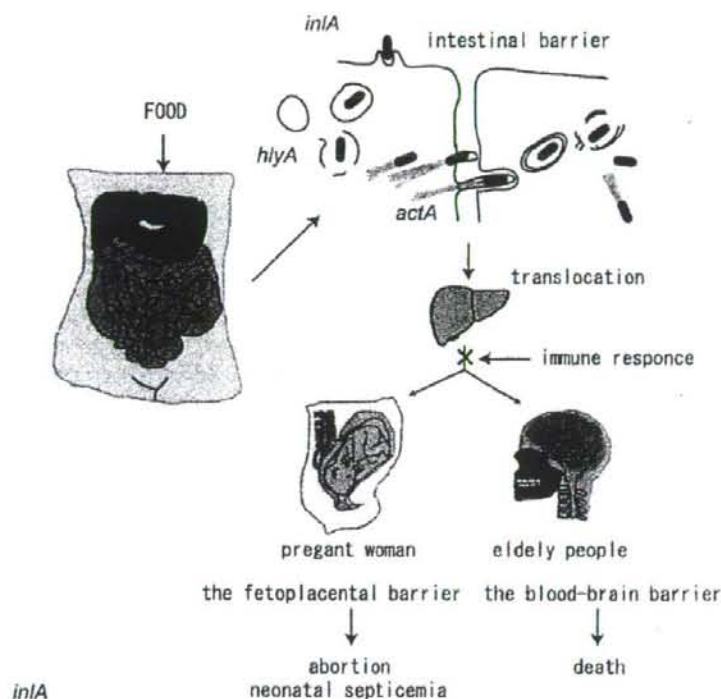


Fig. 2. A schematic representation of how *L. monocytogenes* invades its host. Following ingestion of contaminated food, *L. monocytogenes* cross the intestinal barrier and gain access to the liver and spleen via the bloodstream. In immunocompromised individuals and pregnant women, bacteria can cross the tight blood-brain barrier and the maternofetal barrier, respectively and reach the central nervous system and the placenta.

the risk associated with consumption of food products contaminated with *L. monocytogenes*. An evaluation of any genetic differences between *L. monocytogenes* populations found in humans and foods will be an important area of study to evaluate the risk of this pathogen in the future.

L. monocytogenes in food products and ecosystems

While *L. monocytogenes* is best known as a food-borne pathogen, in nature it has been found in association with plants and decaying plant tissue. It has been hypothesized, that, as an ecological system, livestock farms may function as natural reservoirs for *L. monocytogenes*, and ultimately, as a primary source of *L. monocytogenes* contaminating food-processing plants (Fig. 3). Our understanding of the transmission of *L. monocytogenes* in the farm ecosystem is limited. Many authors agree that a likely scenario for *L.*

monocytogenes transmission on farms includes the initial contamination of crops and soil by wildlife, birds or manure used to fertilise fields. Recently, a case-control study of listeriosis in ruminants (cattle, sheep and goats) was conducted on 24 cases and 28 control farms⁴¹. The study results indicated that the epidemiology and transmission of *L. monocytogenes* differed between small-ruminant and cattle farms and that cattle contribute to the amplification and dispersal of *L. monocytogenes* into the farm environment.

L. monocytogenes is noted for its ability to grow under a wide range of environmental conditions. In particular, it can grow at low or high osmolarity^{5,42}, it can effectively adapt to acidic conditions⁷, and it can grow at temperatures as low as -0.1°C ⁶⁰. Miller⁴⁰, reported growth of *L. monocytogenes* Scott A in brain heart infusion broth, pH 7.4, at 28°C as having a water activity (a_w) value of 0.92 with NaCl as a humectant and 0.90 with glycerol as a humectant. The mini-

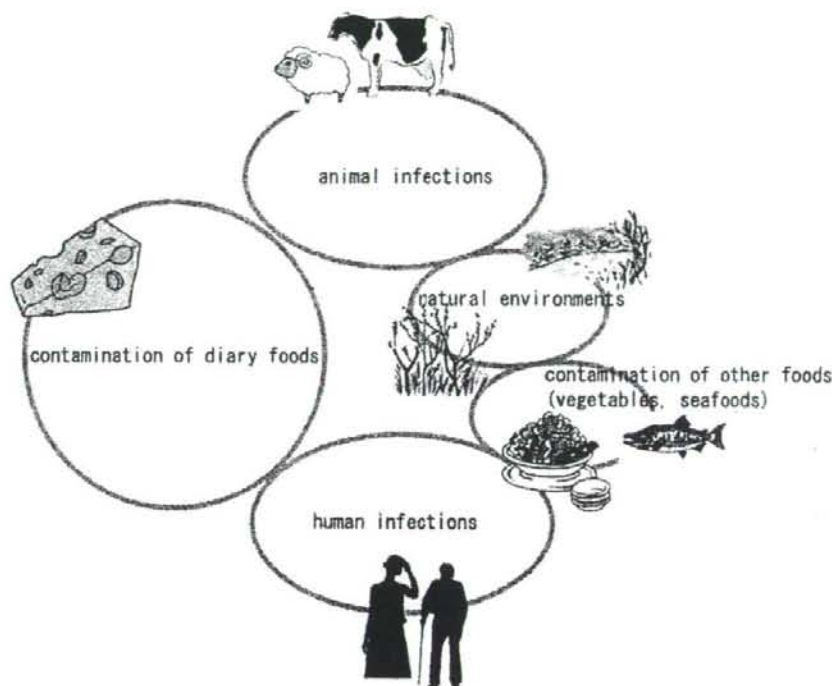


Fig. 3. Different (saprophytic and infective) lifestyles of *L. monocytogenes*. The bacterium is widely distributed in nature, is able to withstand suboptimal conditions encountered during a saprophytic lifestyle, and eventually adapts to the environmental stresses encountered during the infection of a host.

mum pH for the growth of *L. monocytogenes* was 4.3 using HCl as the acidulant¹⁴. Of the acid-resistance mechanisms characterized thus far, that of *L. monocytogenes* is most dependent on the glutamate decarboxylase (GAD) system⁶. The GAD system operates by converting a molecule of glutamate to γ -aminobutyrate (GABA), thus consuming an intracellular proton and alleviating acidification of the cytoplasm⁵⁰. The intracellular GABA is then exchanged for an extracellular glutamate via an antiporter, and the system is thus primed to consume another intracellular proton. A recent study demonstrated that *L. monocytogenes* possesses a total of three glutamate decarboxylase homologs and two transporters⁴⁹. *L. monocytogenes* has been reported to grow at temperatures of less than 0°C in laboratory media broth⁵⁰. Cold-stress (cold-shock and cold acclimation) proteins whose synthesis is increased after temperature downshifts have been isolated, but for the most part, their identity and functions remain undetermined. A recent study of gene

expression in *L. monocytogenes* in response to growth at 10°C showed that the pathogen's acclimation involves amino acid starvation, oxidative stress, aberrant protein synthesis, cell surface remodeling, alterations in degradative metabolism, and induction of global regulatory responses⁵¹.

In general, to survive in extreme environments, the ability to respond rapidly to changes in the environment is necessary. In bacteria, these responses are frequently enacted at the transcriptional level. Global changes in transcription are often coordinated by specific sigma factors whose levels and activities fluctuate in response to environmental cues. In *L. monocytogenes*, the gene encoding σ^H (*sigB*) was identified based on its homology to the *sigB* gene from *Bacillus subtilis*. Phenotypic characterization of *L. monocytogenes* strains lacking *sigB* has shown that σ^H plays a role in resistance to various forms of environmental stress, including osmotic, oxidative, and acid stress^{16, 18}. Also, a broad role for σ^H -dependent genes in virulence has recently been sug-

gested for Gram-positive bacteria. A recent study has indicated that σ^H also contributes to the regulation of virulence gene expression in *L. monocytogenes*²⁹.

L. monocytogenes is able to grow in a wide range of environmental conditions and is almost ubiquitous in the environment, which makes the control of this pathogen problematic in the food industry. Vegetables, cheese and meat products have been sources of several outbreaks and sporadic cases⁴¹. Seafood products have not been linked to large outbreaks of listeriosis, but five cases of febrile gastroenteritis in Finland were associated with cold smoked salmon contaminated with *L. monocytogenes*¹². Other contaminated seafood products, such as smoked mussels, have been assumed to be sources for sporadic cases of listeriosis². Our recent study revealed that many seafood products eaten raw in Japan, such as raw fish, are widely contaminated with this pathogen²³.

Little is known about the physiology of *L. monocytogenes* in food products, plants, animals, and other natural environments. Among them, the capacity of this organism to grow in a fresh-cut produce environment, including cabbage, has been well documented^{15,40}. During adaptation to growth in a plant environment, bacteria must be capable of growth with a limited supply of nutrients, biosynthesis, and/or the transport of building blocks necessary for growth, such as amino acids and nucleotides. Potential forms of stress, such as fluctuations in pH and osmolarity, must be addressed. In a recent study⁴⁰, the differential display of reverse transcription-PCR fragments amplified with a set of 81 arbitrary primers allowed the isolation and identification of 32 *L. monocytogenes* gene fragments that showed higher levels of expression under cabbage-associated conditions. This study is only an initial step toward a more detailed understanding of the physiological strategy of *L. monocytogenes* in natural environments.

Of special interest: why has the incidence of listeriosis in Japan been so low?

In Japan, the incidence of listeriosis has remained very low and there have not been any outbreaks of this disease. In February 2001, *L. monocytogenes* serotype 1/2b was isolated from a washed-type cheese during routine monitoring of domestic cheeses³⁹. Studies with people who had consumed cheese from the plant revealed that 86 had been infected with *L. monocytogenes*. Based on the epidemiological and genetic evidence, it appears that the outbreak was caused by cheese. That study was the first to document an incidence of food-borne listeriosis in Japan. However, no

other food-borne outbreaks have been recognized in Japan in the past 40 years. One hypothesis for this low incidence of listeriosis is that foods distributed in Japan have lower levels of contamination. Recently, Okutani *et al.*⁴⁴ reviewed data on Japanese foods contaminated with *L. monocytogenes*, mainly from Japanese reports, and found that the proportion of *L. monocytogenes*, *Listeria* spp. isolated from foods (meats, natural cheeses, seafood and other ready-to-eat foods, for example) in Japan is similar to reports from other countries. Moreover, in Japan, there is significant consumption of ready-to-eat fish products, including raw fish products, and recent studies have revealed that these products are widely contaminated by *L. monocytogenes*^{23,24,31,65}. However, these products have not been implicated in clinical listeriosis in humans to date. Thus, factors other than the contamination rate might be responsible for the low occurrence of listeriosis. At present, almost no information on this issue can be found in published reports. Okutani *et al.*⁴⁴ carefully discussed this matter in discriminating each type of contaminated food in Japan. However, a direct relationship between the proportion of food contaminated with *L. monocytogenes*, which is almost the same as that in other countries, and the low incidence of listeriosis in Japan could not be identified. They concluded that other factors need to be analyzed in order to resolve this contradiction. One solution to this problem may be a genetic approach. A genetic difference between *L. monocytogenes* populations in humans and in fish products consumed in Japan may account for this difference. Further study will be necessary to evaluate this risk based on the functionality of virulence genes such as *InlA* or *PrfA* or other virulence genes (full-length vs. truncated), as discussed in the above section, in order to differentiate seafood isolates from clinical isolates. At present, however, this is an area of considerable uncertainty, despite great advances in research on the genetic basis of the virulence of this bacterium.

Conclusion

In the last 15 years, listeriosis has changed from being an infectious disease of limited importance to one of the most topical food-borne infections. These pathogens are now a major concern for public health authorities and the food industry. Over the same period, the work of various groups in Europe and the United States has made these pathogens one of the best-characterized groups of intracellular parasites at both the molecular and cellular levels. Despite the major progress made towards understanding the mechanisms of virulence of *Listeria* spp., current insight into the mecha-

nisms of pathogenesis is still partial and fragmentary. Many questions remain unanswered. From a food microbiologist's point of view, a particularly interesting point is why only certain serovars of *L. monocytogenes* are associated with listeriosis and certain clones of serovar 4b are associated with epidemic episodes of this invasive disease? Answering this questions is very important in order to prevent the unnecessary recall and destruction of valuable food products. Further, as discussed in a previous section of this review, despite the significant consumption of raw fish and ready-to-eat fish products in Japan, why have these products as yet never been implicated in clinical listeriosis in humans? There is probably an important difference between the *L. monocytogenes* populations affecting humans and those found in fish products consumed in Japan. In the coming years of the new era of *Listeria* research, we will certainly witness spectacular progress in these areas and no doubt find answers to these and many other questions.

References

- Borucki, M.K., S.H. Kim, D.R. Call, S.C. Smole and F. Pagotto. 2004. Selective discrimination of *Listeria monocytogenes* epidemic strains by a mixed-genome DNA microarray compared to discrimination by pulsed-field gel electrophoresis, ribotyping and multilocus sequence typing. *J. Clin. Microbiol.* 42: 5270-5276.
- Brett, M.S.Y., P. Short and J. McLauchlin. 1998. A small outbreak of listeriosis associated with smoked mussels. *Int. J. Food Microbiol.* 43: 223-229.
- Cai, S., D.Y. Kabuki, A.Y. Kuaye, T.G. Cargioli, M.S. Chung, R. Nielsen and M. Wiedmann. 2002. Rational design of DNA sequence-based strategies for subtyping *Listeria monocytogenes*. *J. Clin. Microbiol.* 40: 3319-3325.
- Centers for Disease Control and Prevention (2000) CDC Surveillance Summaries. *MMWR*. 49, No. SS-1.
- Cole, M.B., M.V. Jones and C. Holyoak. 1990. The effect of pH, salt concentration and temperature on the survival and growth of *Listeria monocytogenes*. *J. Appl. Bacteriol.* 69: 63-72.
- Cotter, P.D., C.G.M. Gahan and C. Hill. 2001. A glutamate decarboxylase system protects *Listeria monocytogenes* in gastric fluid. *Mol. Microbiol.* 40: 465-475.
- Davis, M.J., P.J. Coote and C.P. O'Byrne. 1996. Acid tolerance in *Listeria monocytogenes*: the adaptive acid tolerance response (ATR) and growth-phase-dependent acid resistance. *Microbiology* 142: 2975-2982.
- De Cesare, A., J.L. Bruce, T.R. Dambaugh, M.E. Guerzoni and M. Wiedmann. 2001. Automated ribotyping using different enzymes to improve discrimination of *Listeria monocytogenes* isolates, with a particular focus on serotype 4b strains. *J. Clin. Microbiol.* 39: 3002-3005.
- Doumith, M., C. Cazalet, N. Simoes, L. Frangeul, C. Jacquet, F. Kunst, P. Martin, P. Cossart, P. Glaser and C. Buchrieser. 2004. New aspects regarding evolution and virulence of *Listeria monocytogenes* revealed by comparative genomics and DNA arrays. *Infect. Immun.* 72: 1072-1083.
- Drevets, D.A., P.J. Leenen and R.A. Greenfield. 2004. Invasion of the central nervous system by intracellular bacteria. *Clin. Microbiol. Rev.* 17: 323-347.
- Dussurget, O., J. Pizarro-Cerda and P. Cossart. 2004. Molecular determinants of *Listeria monocytogenes* virulence. *Annu. Rev. Microbiol.* 58: 587-610.
- Ericsson, H., A. Eklöv, M.-L. Danielsson-Tham, S. Loncarevic, L.-O. Mentzing, I. Persson, H. Unnerstad and W. Tham. 1997. An outbreak of listeriosis suspected to have been caused by rainbow trout. *J. Clin. Microbiol.* 35: 2904-2907.
- Farber, J.M. and P.I. Peterkin. 1991. *Listeria monocytogenes*, a food-borne pathogen. *Microbiol. Rev.* 55: 476-511.
- Farber, J.M., F. Coates and E. Daley. 1992. Minimum water activity requirements for the growth of *Listeria monocytogenes*. *Lett. Appl. Microbiol.* 15: 103-105.
- Farber, J.M., S.L. Wang, Y. Cai and S. Zhang. 1998. Changes in populations of *Listeria monocytogenes* inoculated on packaged fresh-cut vegetables. *J. Food Prot.* 61: 192-195.
- Ferreira, A., C.P. O'Byrne and K.J. Boor. 2001. Role of σ^B in heat, ethanol, acid and oxidative stress resistance and during carbon starvation in *Listeria monocytogenes*. *Appl. Environ. Microbiol.* 67: 4454-4457.
- Ferreira, A., D. Sue, C.P. O'Byrne and K.J. Boor. 2003. Role of *Listeria monocytogenes* σ^B in survival of lethal acidic conditions and in the acquired acid tolerance response. *Appl. Environ. Microbiol.* 69: 2692-2698.
- Fraser, K.R., D. Sue, M. Wiedmann and K.J. Boor. 2003. The role of σ^B in regulating the compatible solute uptake systems of *Listeria monocytogenes*: osmotic induction of *opuC* is σ^B dependent. *Appl. Environ. Microbiol.* 69: 2015-2022.
- Gahanand, C.G.M. and C. Hill. 2005. Gastrointestinal phase of *Listeria monocytogenes* infection. *J. Appl. Microbiol.* 98: 1345-1353.
- Gasnov, U., D. Hughes and P.M. Hansbro. 2005. Methods for the isolation and identification of *Listeria* spp. and *Listeria monocytogenes*: a review. *FEMS Microbiol. Rev.* 29: 851-875.
- Glaser, P., L. Frangeul, C. Buchrieser, C. Rusniok, A. Amend, F. Baquero, P. Berche, H. Bloeker, P. Brandt, T. Chakraborty, A. Charbit, F. Chetoui, E. Couve, A. de Daruvar, P. Dehoux, E. Domann, G. Dominguez-Bernal, E. Duchaud, L. Durant, O. Dussurget, K.D. Entian, H. Fsihi, F.G. Portillo, P. Garrido, L. Gautier, W. Goebel, N. Gomez-Lopez, T. Hain, J. Hauf, D. Jackson, L.M. Jones, U. Kaerst, J. Kreft, M. Kuhn, F. Kunst, G. Kurapat, E. Madueno, A. Maitoum, J.M. Vicente, E. Ng, H. Nedjari, G. Nordsiek, S. Novella, B. de Pablos, J.C. Perez-Diaz, R. Purcell, B. Remmel, M. Rose, T. Schluter, N. Simoes, A. Tierrez, J.A. Vazquez-Boland, H. Voss, J. Wehland and P. Cossart. 2001. Comparative genomics of *Listeria* species. *Science* 294: 849-852.
- Graves, L.M. and B. Swaminathan. 2001. PulseNet standardized protocol for subtyping *Listeria monocytogenes* by macrorestriction and pulsed-field gel electrophoresis. *Int. J. Food Microbiol.* 65: 55-62.
- Handa, S., B. Kimura, H. Takahashi, T. Koda, K. Hira and T. Fujii. 2005. Incidence of *Listeria monocytogenes* in raw seafood products in Japanese retail stores. *J. Food Prot.* 68: 411-415.
- Hara, Y., M. Izumisawa and K. Ishii. 2003. Contamination of *Listeria monocytogenes* in Ready-to-Eat Seafoods in Japan. *Jpn. J. Food Microbiol.* 20: 63-67. (In Japanese)

- 25) Herd, M. and C. Kocks. 2001. Gene fragments distinguishing an epidemic-associated strain from a virulent prototype strain of *Listeria monocytogenes* belong to a distinct functional subset of genes and partially cross-hybridize with other *Listeria* species. *Infect. Immun.* 69: 3972-3979.
- 26) Igimi, S. 2005. Current topics and risk management of *Listeria monocytogenes* in food. *Shokuhin Eiseigaku Zasshi*. 46: 237-239.
- 27) Jacquet, C., M. Doumith, J.I. Gordon, P.M.V. Martin, P. Cossart and M. Lecuit. 2004. A molecular marker for evaluating the pathogenic potential of foodborne *Listeria monocytogenes*. *J. Infect. Dis.* 189: 2094-2100.
- 28) Jeffers, G.T., J.L. Bruce, P.L. McDonough, J. Scarlett, K.J. Boor and M. Wiedmann. 2001. Comparative genetic characterization of *Listeria monocytogenes* isolates from human and animal listeriosis cases. *Microbiology*. 147: 1095-1104.
- 29) Kazmierczak, M.J., S.C. Mithoe, K.J. Boor and M. Wiedmann. 2003. *Listeria monocytogenes* σ^H regulates stress response and virulence functions. *J. Bacteriol.* 185: 5722-5734.
- 30) Kocks, C., E. Gouin, M. Tabouret, P. Berche, H. Ohayon and P. Cossart. 1992. *L. monocytogenes*-induced actin assembly requires the *actA* gene product, a surface protein. *Cell* 68: 521-531.
- 31) Kokubo, Y. 1992. *Listeria monocytogenes*. *Jpn. J. Food Microbiol.* 9: 13-22. (In Japanese)
- 32) Lecuit, M. 2005. Understanding how *Listeria monocytogenes* targets and crosses host barriers. *Clin. Microbiol. Infect.* 11: 430-436.
- 33) Liu, S.Q., J.E. Graham, L. Bigelow, P.D. Morse and B.J. Wilkinson. 2002. Identification of *Listeria monocytogenes* genes expressed in response to growth at low temperature. *Appl. Environ. Microbiol.* 68: 1697-1705.
- 34) Maiden, M.C., J.A. Bygraves, E. Feil, G. Morelli, J.E. Russell, R. Urwin, Q. Zhang, J. Zhou, K. Zurth, D.A. Caugant, I.M. Feavers, M. Achtman and B.G. Spratt. 1998. Multilocus sequence typing: a portable approach to the identification of clones within populations of pathogenic microorganisms. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 95: 3140-3145.
- 35) Makino, S.-I., K. Kawamoto, K. Takeshi, Y. Okada, M. Yamasaki, S. Yamamoto and S. Igimi. 2005. An outbreak of foodborne listeriosis due to cheese in Japan, during 2001. *Int. J. Food Microbiol.* 104: 189-196.
- 36) Marquis, H., H. Goldfine and D.A. Portnoy. 1997. Proteolytic pathways of activation and degradation of a bacterial phospholipase C during intracellular infection by *Listeria monocytogenes*. *J. Cell Biol.* 137: 1381-1392.
- 37) McLauchlin, J., R.T. Mitchell, W.J. Smerdon and K. Jewell. 2004. *Listeria monocytogenes* and listeriosis: a review of hazard characterisation for use in microbiological risk assessment of foods. *Int J Food Microbiol.* 92: 15-33.
- 38) Mead, P.S., L. Slutsker, V. Dietz, L.F. McCaig, J.S. Bresee, C. Shapiro, P.M. Griffin and R.V. Tauxe. 1999. Food-related illness and death in the United States. *Emerg. Infect. Dis.* 5: 607-625.
- 39) Meinersmann, R.J., R.W. Phillips, M. Wiedmann and M.E. Berrang. 2004. Multilocus sequence typing of *Listeria monocytogenes* by use of hypervariable genes reveals clonal and recombination histories of three lineages. *Appl. Environ. Microbiol.* 70: 2193-2203.
- 40) Miller, A. 1992. Combined water activity and solute effects on the growth and survival of *Listeria monocytogenes* Scott A. *J. Food Prot.* 55: 414-418.
- 41) Nadon, C.A., D.L. Woodward, C. Young, F.G. Rodgers and M. Wiedmann. 2001. Correlations between molecular subtyping and serotyping of *Listeria monocytogenes*. *J. Clin. Microbiol.* 39: 2704-2707.
- 42) Nightingale, K.K., K. Windham, K.E. Martin, M. Yeung and M. Wiedmann. 2005. Select *Listeria monocytogenes* subtypes commonly found in foods carry distinct nonsense mutations in *inlA*, leading to expression of truncated and secreted internalin A, and are associated with a reduced invasion phenotype for human intestinal epithelial cells. *Appl. Environ. Microbiol.* 71: 8764-8772.
- 43) Nightingale, K.K., Y.H. Schukken, C.R. Nightingale, E.D. Fortes, A.J. Ho, Z. Her, Y.T. Grohn, P.L. McDonough and M. Wiedmann. 2004. Ecology and transmission of *Listeria monocytogenes* infecting ruminants and in the farm environment. *Appl. Environ. Microbiol.* 70: 4458-4467.
- 44) Okutani, A., Y. Okada, S. Yamamoto and S. Igimi. 2004. Overview of *Listeria monocytogenes* contamination in Japan. *Int. J. Food Microbiol.* 93: 131-140.
- 45) Okutani, A., Y. Okada, S. Yamamoto and S. Igimi. 2004. Nationwide survey of human *Listeria monocytogenes* infection in Japan. *Epidemiol. Infect.* 132: 769-772.
- 46) Palumbo, J.D., A. Kaneko, K.D. Nguyen and L. Gorski. 2005. Identification of genes induced in *Listeria monocytogenes* during growth and attachment to cut cabbage, using differential display. *Appl. Environ. Microbiol.* 71: 5236-5243.
- 47) Pamer, E.G. 2004. Immune responses to *Listeria monocytogenes*. *Nat. Rev. Immunol.* 4: 812-823.
- 48) Paul, D., Cotter, P.D., S. Ryan, C.G.M. Gahan and C. Hill. 2005. Presence of GAD1 glutamate decarboxylase in selected *Listeria monocytogenes* strains is associated with an ability to grow at low pH. *Appl. Environ. Microbiol.* 71: 2832-2839.
- 49) Prazak, A.M., E.A. Murano, I. Mercado and G.R. Acuff. 2002. Prevalence of *Listeria monocytogenes* during production and postharvest processing of cabbage. *J. Food Prot.* 65: 1728-1734.
- 50) Richard, H.T. and J.W. Foster. 2003. Acid resistance in *Escherichia coli*. *Adv. Appl. Microbiol.* 52: 167-186.
- 51) Robbins, J.R., A.I. Barth, H. Marquis, E.L. de Hostos, W.J. Nelson and J.A. Theriot. 1999. *Listeria monocytogenes* exploits normal host cell processes to spread from cell to cell. *J. Cell Biol.* 146: 1333-1350.
- 52) Roche, S.M., P. Gracieux, E. Milohanic, I. Albert, I. Virlogeux-Payant, S. Témoin, O. Grépinet, A. Kerouanton, C. Jacquet, P. Cossart and P. Velge. 2005. Investigation of specific substitutions in virulence genes characterizing phenotypic groups of low-virulence field strains of *Listeria monocytogenes*. *Appl. Environ. Microbiol.* 71: 6039-6048.
- 53) Rousseaux, S., M. Olier, J.P. Lamaitre, P. Piveteau and J. Guzzo. 2004. Use of PCR-restriction fragment length polymorphism of *inlA* for rapid screening of *Listeria monocytogenes* strains deficient in the ability to invade Caco-2 cells. *Appl. Environ. Microbiol.* 70: 2180-2185.
- 54) Schuchat, A., B. Swaminathan and C. Broome. 1991. Epidemiology of human listeriosis. *Clin. Microbiol. Rev.* 4: 169-183.
- 55) Schuchat, A., K. Robinson, J.D. Wenger, L.H. Harrison, M. Farley, A.L. Reingold, L. Lefkowitz, B.A. Perkins and the Active Surveillance Team. 1997. Bacterial meningitis in the United States in 1995. *N. Engl. J. Med.* 337: 970-976.
- 56) Siegmán-Igra, Y., R. Levin, M. Weinberger, Y. Golan, D. Schwartz, Z. Samra, H. Konigsberger, A. Yinnon, G. Rahav, N.

- Keller, N., Bisharat, J., Karpuch, R., Finkelstein, M., Alkan, Z., Landau, J., Novikov, D., Hassin, C., Rudnicki, R., Kitzes, S., Ovadia, Z., Shimoni, R., Lang, T. and T. Shohat. 2002. *Listeria monocytogenes* infection in Israel and review of cases worldwide. *Emerg. Infect. Dis.* 8: 305–310.
- 57) Sleator, R.D., C.G.M. Gahan and C. Hill. 2003. A postgenomic appraisal of osmotolerance in *Listeria monocytogenes*. *Appl. Environ. Microbiol.* 69: 1–9.
- 58) Tompkin, R.B. 2002. Control of *Listeria monocytogenes* in the food-processing environment. *J. Food Prot.* 65: 709–725.
- 59) Vázquez-Boland, J.A., M. Kuhn, P. Berche, T. Chakraborty, G. Domínguez-Bernal, W. Goebel, B. González-Zorn, J. Wehland and J. Kreft. 2001. *Listeria* pathogenesis and molecular virulence determinants. *Clin. Microbiol. Rev.* 14: 584–640.
- 60) Walker, S.J., P. Archer and J.G. Banks. 1990. Growth of *Listeria monocytogenes* at refrigeration temperatures. *J. Appl. Bacteriol.* 68: 157–162.
- 61) Ward, T.J., L. Gorski, M.K. Borucki, R.E. Mandrell, J. Hutchins and K. Papedis. 2004. Intraspecific phylogeny and lineage group identification based on the *prfA* virulence gene cluster of *Listeria monocytogenes*. *J. Bacteriol.* 186: 4994–5002.
- 62) Wernars, K., P. Boerlin, A. Audurier, E.G. Russell, G.D. Curtis, L. Herman and N. van der Mee-Marquet. 1996. The WHO multicenter study on *Listeria monocytogenes* subtyping: random amplification of polymorphic DNA (RAPD). *Int. J. Food Microbiol.* 32: 325–341.
- 63) Wiedmann, M., J.L. Bruce, C. Keating, A.E. Johnson, P.L. McDonough and C.A. Batt. 1997. Ribotypes and virulence gene polymorphisms suggest three distinct *Listeria monocytogenes* lineages with differences in pathogenic potential. *Infect. Immun.* 65: 2707–2716.
- 64) Wing, E.J. and S.H. Gregory. 2000. An updated model of cell-mediated immunity—listeriosis: clinical and research aspects. *Allergy Asthma Proc.* 21, pp. 209–214.
- 65) Yamazaki, K., T. Tateyama, Y. Kawai and N. Inoue. 2000. Occurrence of *Listeria monocytogenes* in retail fish and processed seafood products in Japan. *Fish. Sci.* 66: 1191–1193.
- 66) Zheng, W. and S. Kathariou. 1995. Differentiation of epidemic-associated strains of *Listeria monocytogenes* by restriction fragment length polymorphism in a gene region essential for growth at low temperatures (4°C). *Appl. Environ. Microbiol.* 61: 4310–4314.